第 11 回

字幕付きでCMをオンエア!

電通　コーポレートオフィス
広告電通賞プロジェクト部 事務局長補佐
沼澤　忍

取材はリアルとオンライン併用で、和やか、活発に意見交換が行われました。IAUDの皆さんと電通の沼澤氏（オンライン参加）と藤井氏（JAAA字幕CMWGリーダー）

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
（IAUD）CM字幕プロジェクト　（敬称略・順不同）

主　査	高橋	雅尚（個人会員）
副主査	土屋	亮介（個人会員）
副主査	松森	果林（個人会員）
メンバー	宮城	英明（ライオン株式会社）
	白川	幸宏（GroupIMD）
	安藤	嘉教（GroupIMD）

＊撮影時に一時的にマスクを外して撮影を行いました。
意見交換時はマスク着用、感染予防を徹底して行いました。

2月号は、1月号に続いてIAUDさんとの意見交換会の内容を記します。（ぜひ、1月号もお読みください。）

IAUD·CM字幕PJの今後の活動についてお話がありました。「プロジェクトでは、スポット枠開放を経て字幕CM放送を放送局さんにお願いする立場から、広告主さんに字幕CMをやって行きましょうよと、仲間を増やす方向に変わっていくのが良いのではないかと話しています。もっと見やすい字幕とはなんだろう?と研究し提案しようと考えています。」

また、筑波技術大学での講義の際に聴覚障害の大学生の方のエピソードを披露いただきました。

「実は、質疑応答で『今の字幕がつまらない。平板でつまらない』と言われました。『もっとエモーショナルで感情が現れた字幕でもいいんじゃないか?』そういう意見がありました。私もかねがね、そういったことができれば面白いなとは思っていたのです。実際の聴覚障害者の方からその意見が出たので、あ、やっぱりそうか、と思った次第です。」

「もちろん、技術的にすぐにはできないと思います。が、例えば若い学生さんたち、これから未来を担う方々と一緒に、次世代の字幕はどんなものかと研究できればよいですね。今の定型的な文字を貼るだけでは、今後さらに進化できないのではないか。大学等とコラボレーションして研究して行くのが、IAUDの一つの役割であると考えています。」

一方で、「最近の若者はテレビを見ない人が増えている。自分の周りの聴覚障害者も大半はスマートフォンで情報を得ることが多いので、テレビCMに字幕を付ける重要性を強く感じない企業もあるのではないか?」という現状認識や課題提起もありました。倍速で録画を視る若い人たちが健聴者でも字幕を利用していることについて、「字幕は聴覚障害者だけのものではない、若い人たちにも必要とされている、使いこなしているよね。」という意見もありました。

「IAUDや字幕付きCM普及推進協議会の活動に興味があり、今後も参加して何らかの形で関われたら良い」という学生もいらっしゃったとのこと。

フジテレビ木曜劇場『silent』（2022年10月6日～ 12月22日放送<全11話>）も話題に上がり、倍速視聴する若い人たちのテレビ視聴形態の変化にも話が及びました。

その他、テレビ媒体の価値向上のために、字幕付きCMの評価基準や方法は何か? 字幕アワードも検討したら? とにかく今後字幕付きCMはどんどん増えていく! そのためにも字幕付きテレビCMはもっと進化を! 若者の声をもっと聴いて!! と前向きな話し合いになりました。

今まであまり字幕付きCMを見たことがなかった方も、字幕付きCMが増え、テレビを字幕付きで視る習慣ができ、字幕の表現の工夫を知ることになります。ぜひ字幕付きCMの進化の研究もして行きたいと思います。

ちなみに松森果林さんは、ダイアログ·イン·サイレンス（https://dis.dialogue.or.jp/）の音のない世界で、言葉の壁を超えた対話をエンターテイメントにする企画にも携わっていらっしゃいます。

以上IAUDさんとのお話を二回に分けてご紹介しました。字幕付きCM普及推進協議会に興味がある若者と対話する機会を考え、「新しい字幕のカタチ」への実現可能性などを引き続き追求していきたいと思います。

（ご質問は事務局　info@jaaa.ne.jp まで）